

熊本
の
パワ
ー
ス
ポ
ツ
ト

はじめに

本書は下記のブログに元にしたものです。ただし本書のほうが画像が大きく見やすくなっています。

[『熊本 臨床心理士の私的スピ系備忘録』](#)

それぞれ場所はこちらを参照してください。

[『熊本のパワースポット』](#)

舟の口水源（熊本県上益城郡山都町長崎）

宮崎県との県境近くにある舟の口水源です。



舟の口水源までは服掛松キャンプ場を通り過ぎ、山道を進んでいくと辿りつけます。道は舗装されていますが、大型車だとちょっと運転しにくいかも。



熊本名水百選にもなっています。
横にホースがありますが、直接くちをつけて飲む方が美味しく感じます！
顔がずぶ濡れになるのも爽快感♪



水はいたる所から流れでており、これもその一つ。
水量が多いためか、このあたりでは暑さが和らぎます。



上の写真の下流部分。



別の場所からも何箇所にもわたって水が湧き出ていました。



またここでは魚の養殖がされており、たくさんの魚影を見ることができます。



(2010.7.24)

霊巖洞（熊本県熊本市松尾町平山）

[宮本武蔵](#)が『[五輪書](#)』を書いたといわれる霊巖洞（れいがんどう）です。



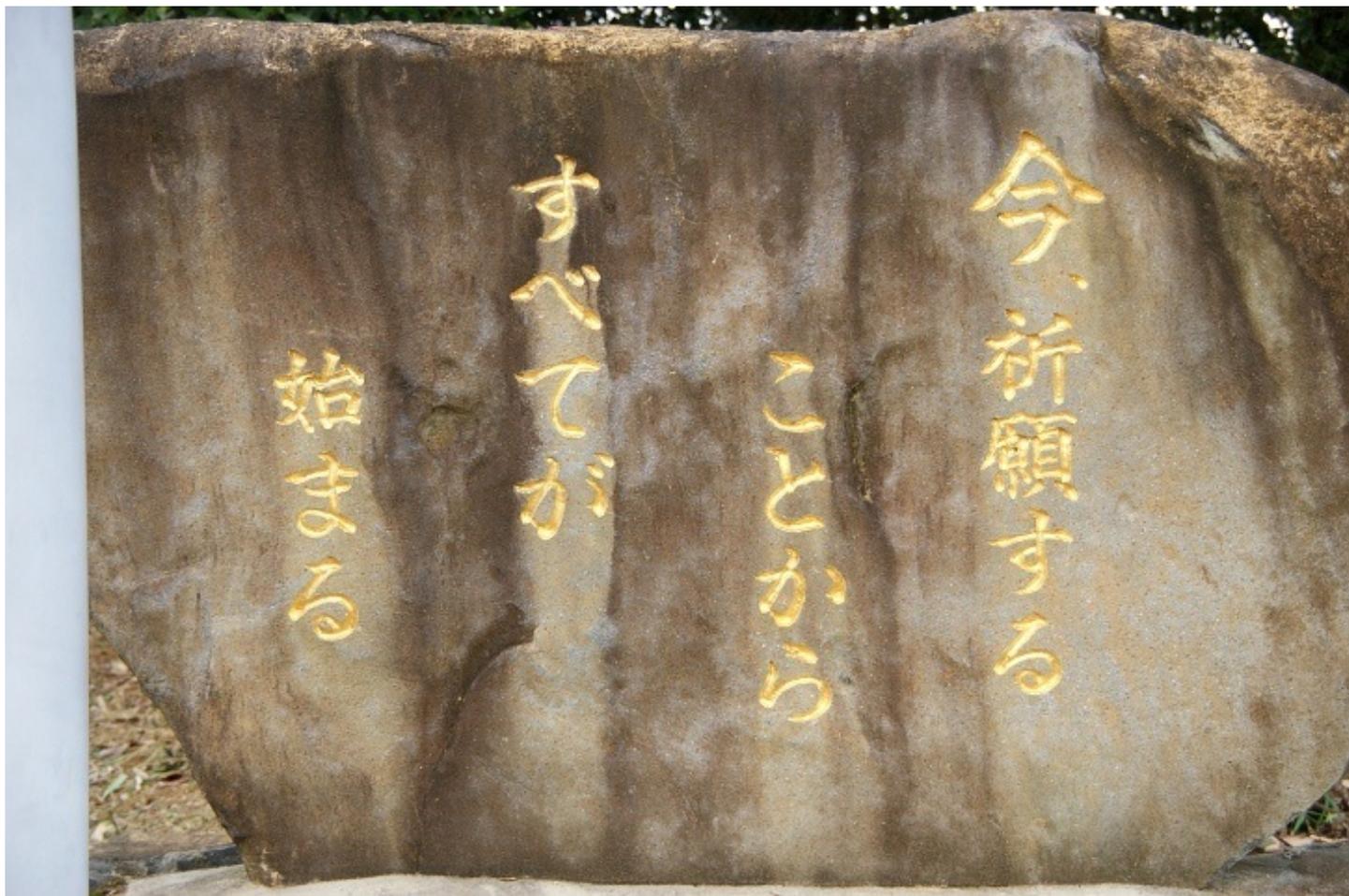
霊巖洞へは熊本市方面から101号線を走っていると、このような看板が見えてきます。



駐車場のすぐ近くにある武蔵像。



武蔵像の近くにこのような言葉が彫ってありました。



すぐ近くにある黒岩展望所。この日は曇り気味でしたが、山あいとその先にある海がよく見渡せました。



駐車場から霊巖洞までは若干歩き、雲巖禅寺を通り過ぎます。



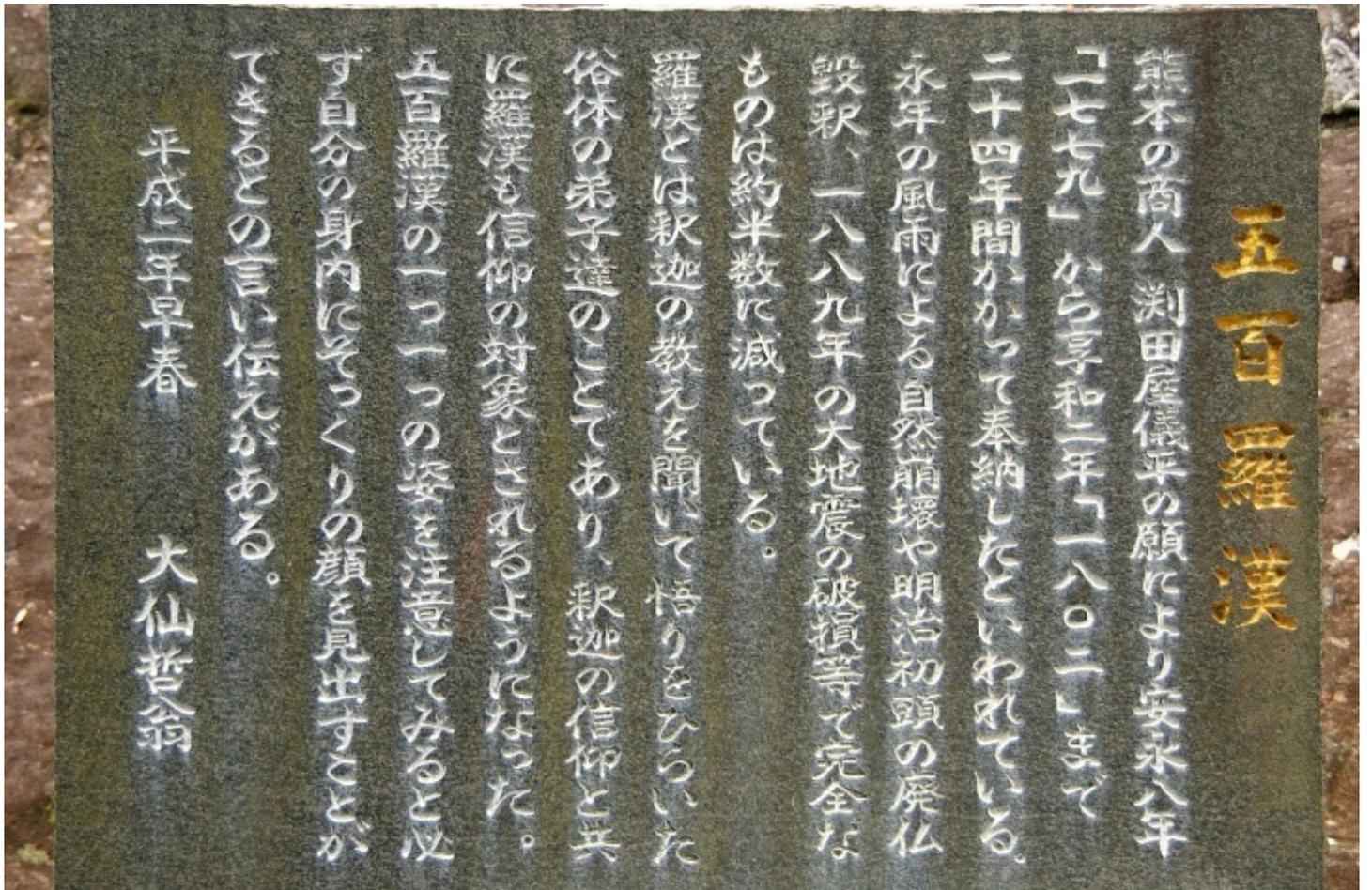
霊巖洞への入場料は大人200円、小人100円。



中に入ると、まず五百羅漢が見えてきます。
約200年前に作られたため、半数ほどは破損しているそうです。
しかしその数には圧巻。



五百羅漢の説明文。



一番奥まで進むと霊巖洞があります。

洞窟の中はここまでしか入れませんでした、奥には馬頭観音が安置されているそうです。



岩陰にカワイイ感じでちょこんと置いてありました。



(2009.11.21)

池山水源（熊本県阿蘇郡産山村田尻）

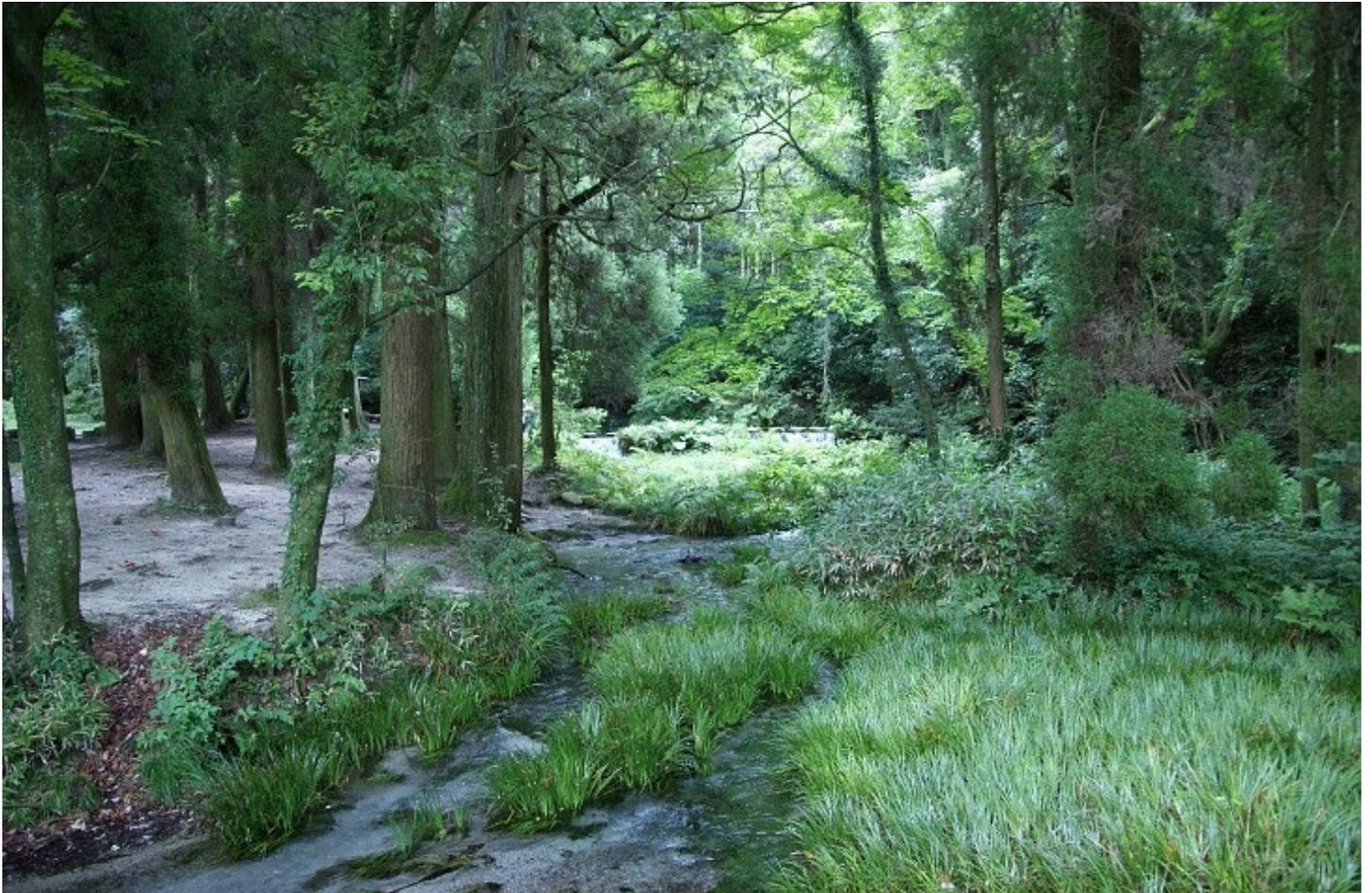
全国名水百選にもなった池山水源です。



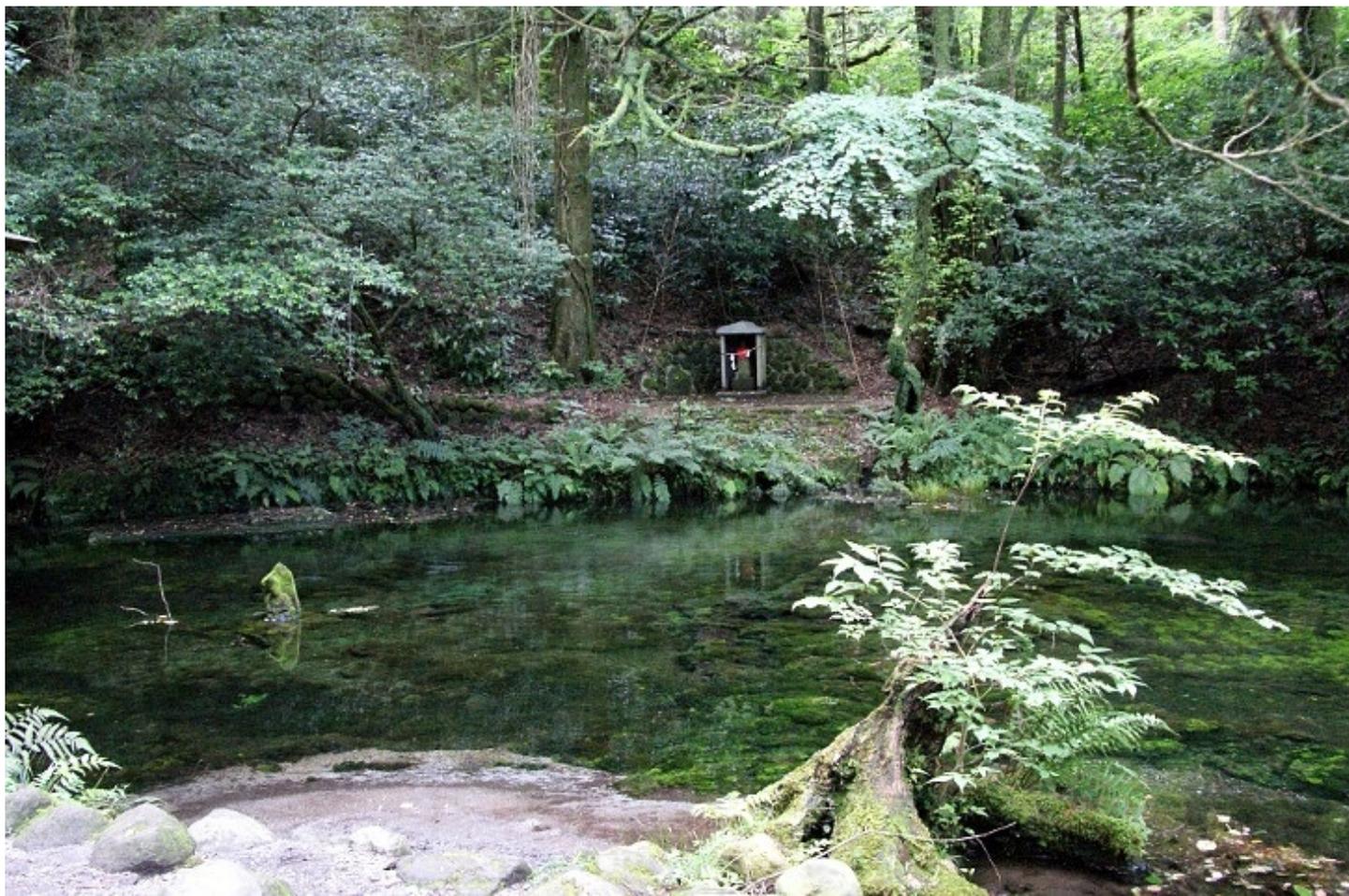
全国と共に熊本県でも名水百選に認定されています。



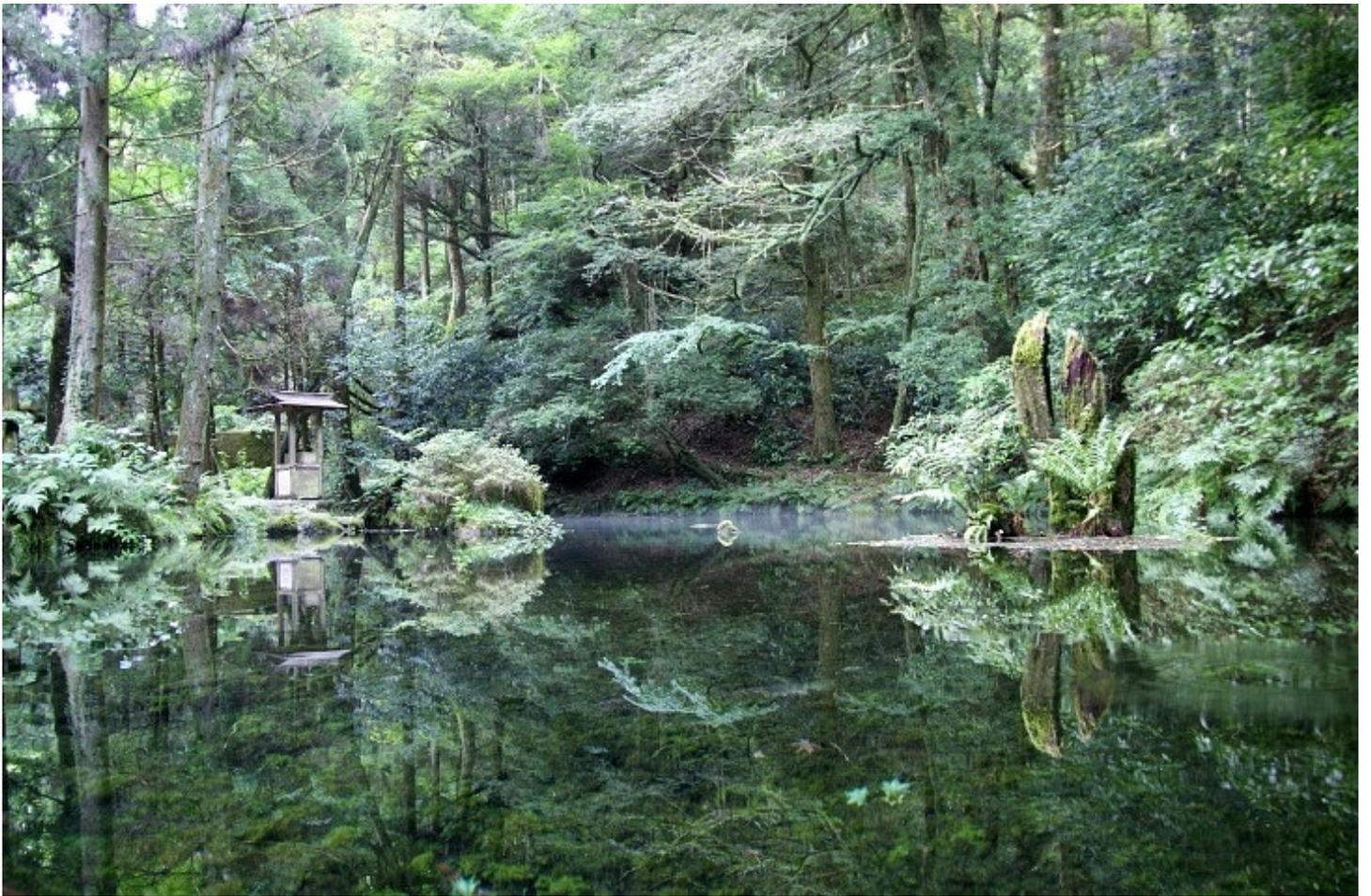
水源から流れている川です。こういう緑に囲まれた場所に池山水源があります。



池山水源。水の透明度がものすごく、向こう側には水神様(?)が祀ってありました。



違うアングルからも一枚。



水晶のブレスレットを水源につけて浄化中。
ちなみに水源は飲料水にも使われるため、中に入らないようにと注意書きがありました。



池山水源

IKEYAMA HEADSPRING

所在地	熊本県阿蘇郡産山村大字田尻	環境庁認定	全国名水百選(昭和60年7月22日)
水系	1級河川、大野川水系玉来川の水源	熊本県認定	熊本名水百選(昭和60年8月)
湧水量・水温	毎分30トン、13°C~14°C	熊日認定	熊本緑の百選(昭和60年3月)
標高	約780m		

由来

古来、この地区の人々は、豊富な水を利用して水田を拓き、先祖代々、悠然と生活してきた。いかなる干魃の年にも枯れる事なき「泉」に心から感謝し、この泉に水神様をまつり、池やその周辺を掃除して清め、毎年8月5日を祭日とし、老若男女を問わず御祭りが続けられ今日に至っている。

昭和51年、たまたま池を掃除中、池の底から忽然と一体の水神様が掘り出された。これは、約二百年ほど前、この地区を襲った大水害の際、数戸の家屋と共に流失、姿を消したものであると思われ、その後新たに水神を建立し祭祀したのであろう。今、正に二体の神が守る「神の泉」そのものである。湧水は、流域水田の灌漑や、地域住民の飲料水として生活に密着しているほか、昭和60年から清涼飲料の加工原水として一部用いられている。

LOCALITY: 780m above the sea level. Tajiri Ubuyama-mura Aso-gun Kumamoto Prefecture.

WATER SYSTEM: The first class river. The source of the Tamarai River, a branch of the Ohno River.

SPRING WATER IN AMOUNT: 30 tons a minutes.

TEMPERATURE OF THE WATER Unchangeable 13~14°C.

RECOGNITION: Environment Agency's "One Hundred Famous Waters" on July 22, 1985 (60th of Showa)

Kumamoto Prefecture's "One Hundred Famous Waters" in August in 1985.

The Kumanchi Press's "One Hundred Green Spots."

The story of its origin

(2009.7.13)

塩井神社・塩井社水源（熊本県阿蘇郡南阿蘇村中松）

南阿蘇にある塩井神社と、その横から湧き出ている塩井社水源です。



駐車場からの一枚。

駐車場は数台分停められる広さがあります。



塩井神社の社殿。
御祭神は[罔象女神](#)で水の神様です。

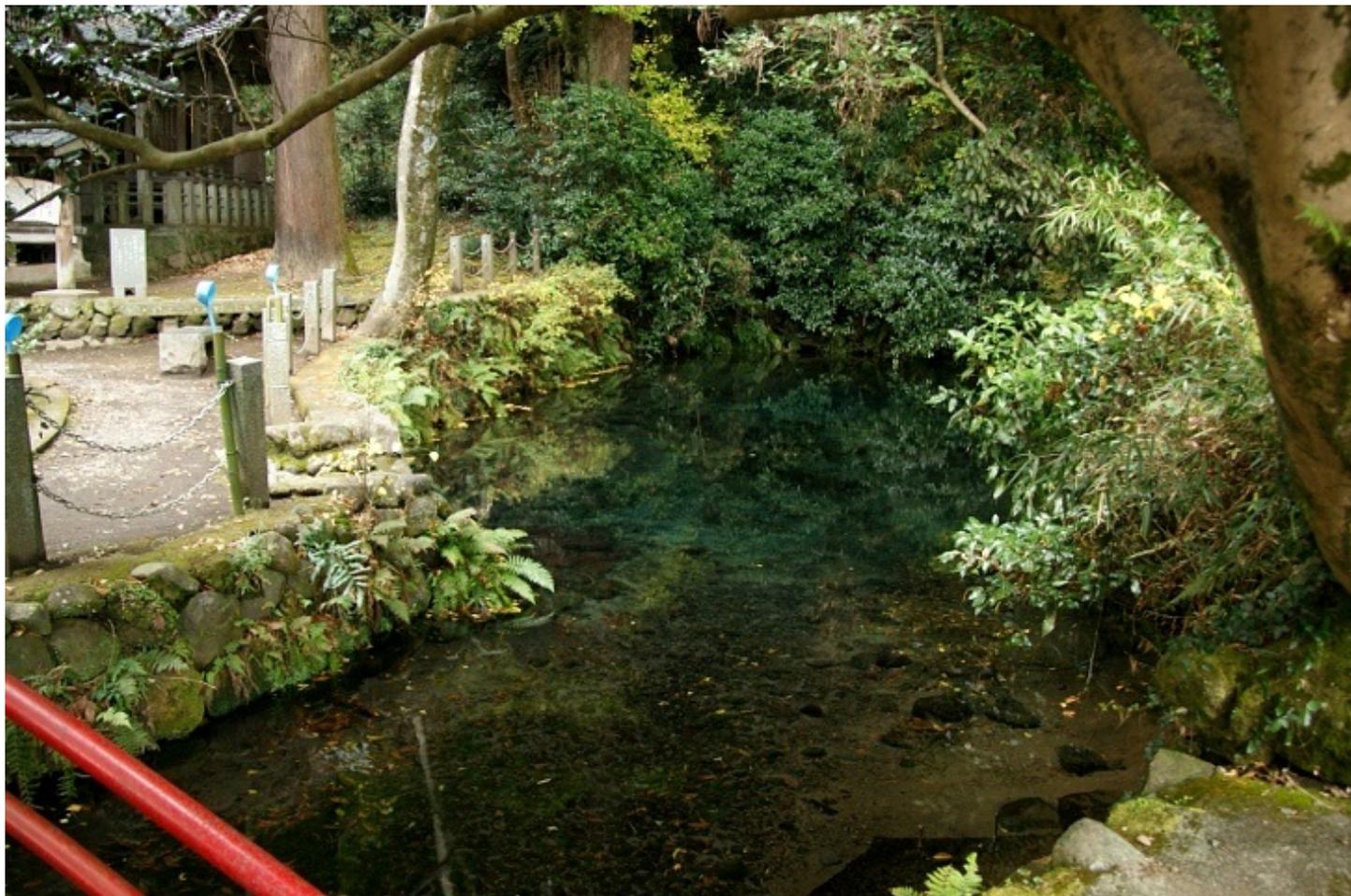


境内では綺麗な紅葉が色付いていました。



こちらは塩井社水源。 [池山水源](#)を彷彿させる美しさです。

ちなみに近くには「泳がないでください」や「洗濯はご遠慮ください」などの注意書きが。



中にはたくさんの小魚が泳いでおり、カニを見ることもできました。



(2009.11.15)

高森殿の杉（熊本県上益城郡山都町柳）

樹齢が1000年を越すとされている高森殿（たかもりどん）の杉です。
左が雄杉で、右が雌杉だそうです。



高森殿の杉まではやや道が分かりにくくなっています。
最初の関門はここで、この小道を入っていきます。
ちなみにこの写真の左側が十字路で信号があります。



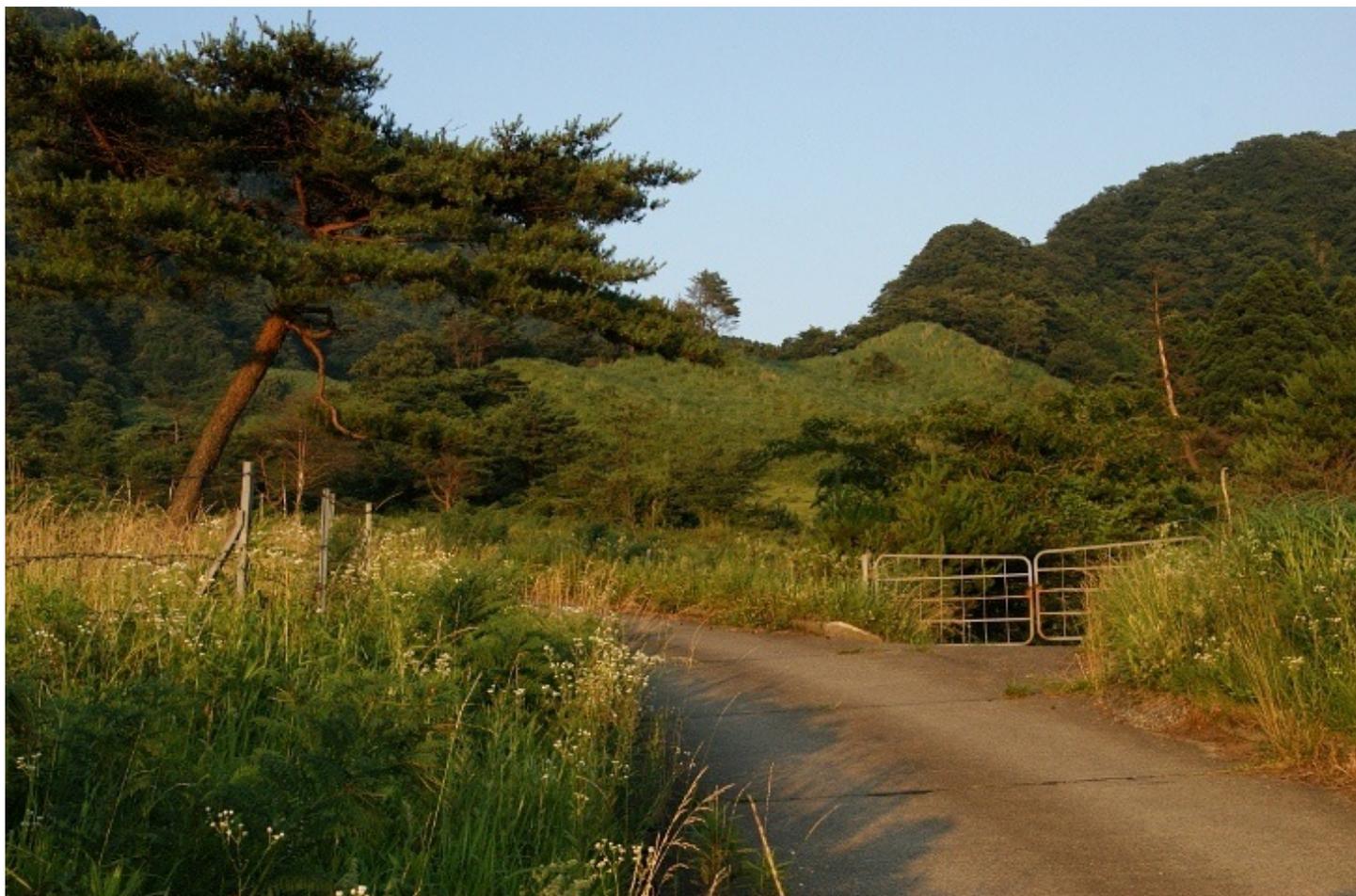
しばらく走るとこのような看板が。
 ここから次の目印まで車で2分弱。

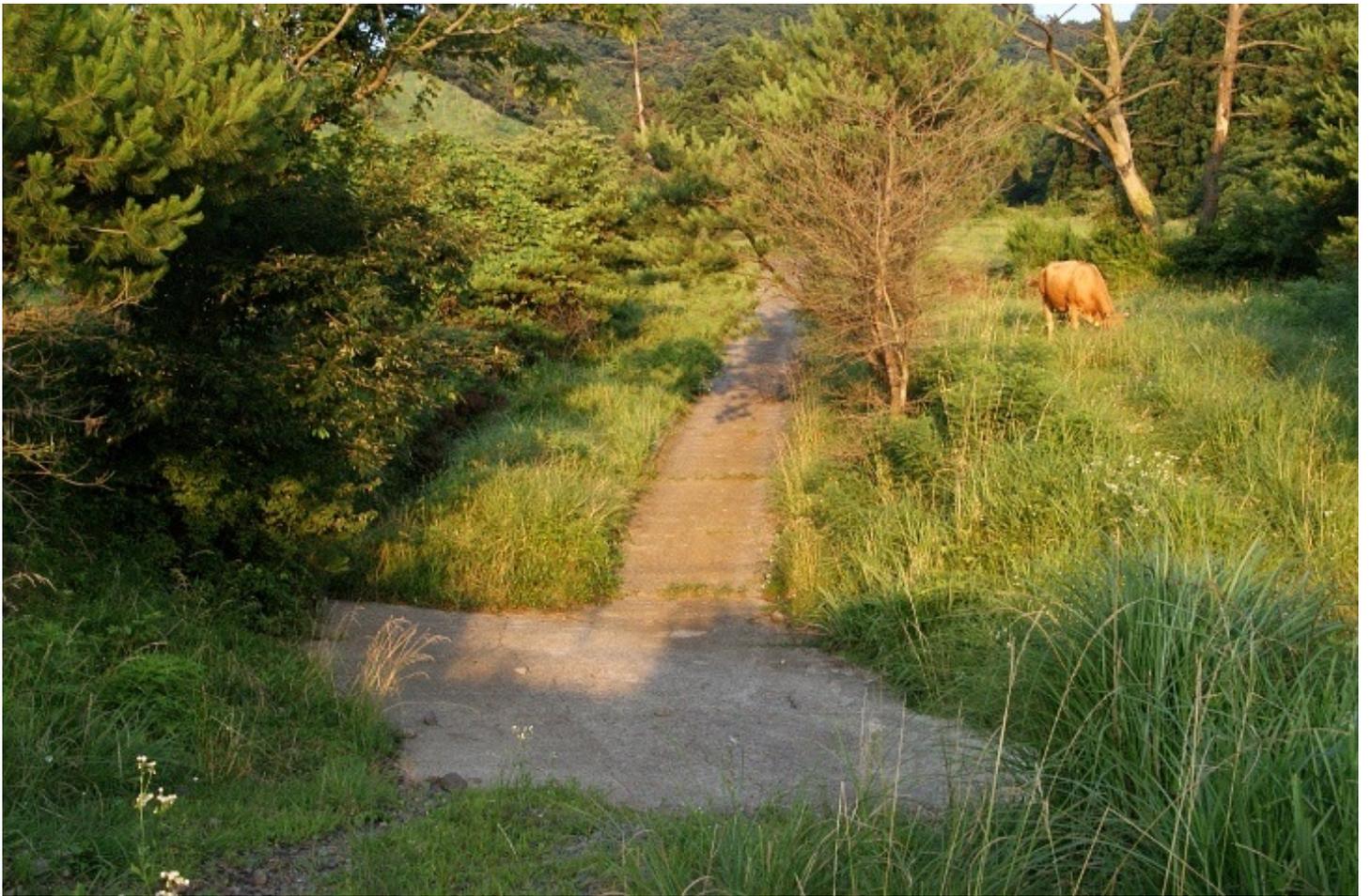


そして最大の難関はここ。

この右側のところから入っていきます。

ちなみにこの写真を撮っている位置より少し後ろに、車が一台止められるくらいの離合帯があります。





しばらく坂道を上がって行くと、このような景色が見えてきます。
この中心から少し右に見える茂みが、目的の高森殿の杉がある場所です。



近づくと茂みの中に立て札がありました。正直、始めは完全に見逃していました。



そしてとうとう、茂みを分け入ってみると、そこに高森殿の杉が！







この場所の雰囲気というかオーラというか、とにかくここで感じたものは写真では表せません。
とても荘厳で、原始的で、力強いパワーがありました。

(2009.7.6)

鍋ヶ滝（熊本県阿蘇郡小国町黒淵）

熊本の滝の中でも特に有名な鍋ヶ滝です。



鍋ヶ滝の入り口。



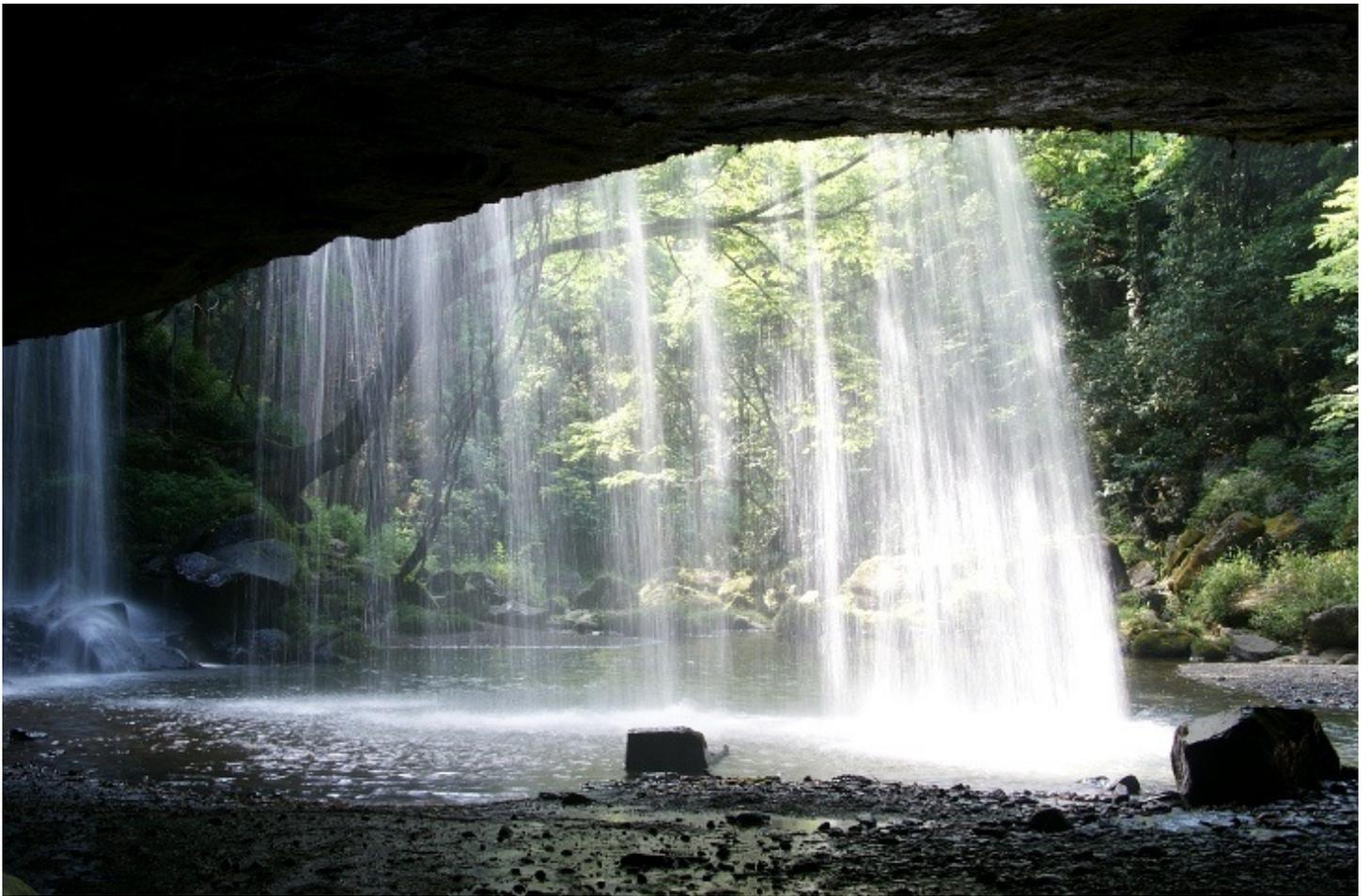
鍋ヶ滝まではけっこう急な下り道になっていますので、気をつけて降りていきましょう。



滝を正面から。



ここの最大の特徴は、滝の裏側に回れること！
滝の轟音が響きながらも、ひんやりとした清浄な空間が広がっています。



左側の滝に虹が出ていました（ちょっと見えにくいですが）。



(2009.6.12)

白糸の滝（熊本県阿蘇郡西原村河原）

西原村にある白糸の滝です。



白糸の滝までは駐車場から少し歩かないといけません。



滝の近くで100円徴収されます。



滝を近くから。



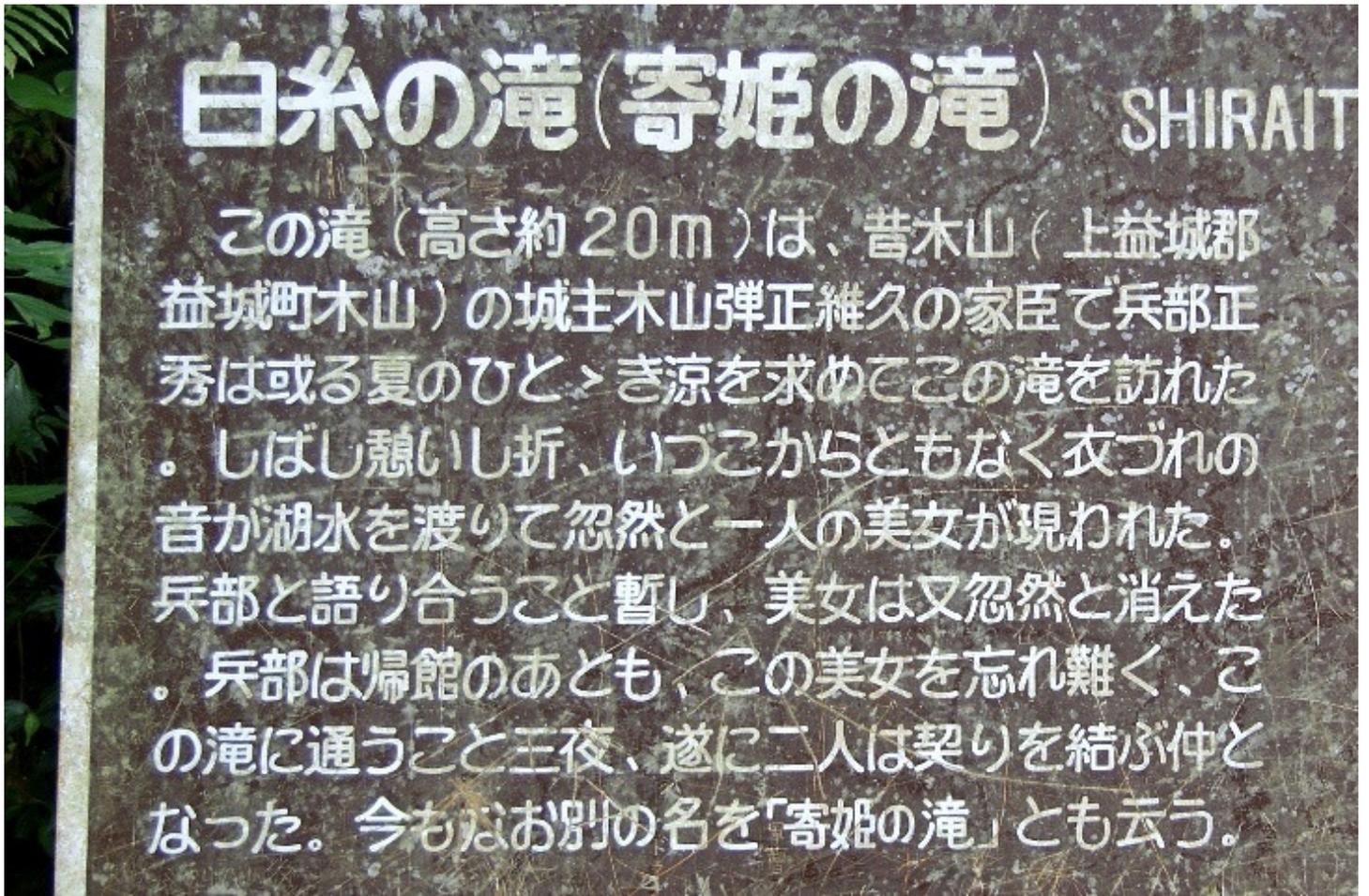
滝の上部。
実際にはこのように勢い良く流れ落ちています。



滝つぼから流れ出る水にも風情を感じました。



白糸の滝は別名、「寄姫の滝」とも呼ばれます。



(2009.9.7)

吉無田水源（熊本県上益城郡御船町田代）

熊本名水100選の一つ、吉無田水源です。



熊本市側から吉無田水源へは、「緑の村」キャンプ場のちょっと先になります。
広い駐車場が用意されていますが、ほとんどの人は水源入り口に車を停めていました。



水源のすぐ近くに祀られてあった山神社と水神社。





吉無田水源のあらまし。

今のように豊富な水源になったのは、先人の偉大な努力のおかげです。

吉無田水源のあらまし

吉無田の森林は、江戸時代は肥後細川藩の藩有林、現在の国有林である。

その昔から、この地の下方は丘陵地帯であり、飲用水や農耕用水等の不足に苦勞した土地柄であります。その為四百年近い昔の寛永から天和年間にかけて長さ20Kmにわたり元禄井手が作られました。しかし、もともとが乏しい溪流をかき集めた用水であり、上流の山々が草原である為、水源の八勢川そのものに水がなく水需要の増えつつある中で人々は水不足に苦しんでいました。

そこで、文化12年(1815年)に当時の山支配役が郡奉行と相談して一大植林の事業をおこし、弘化4年(1847年)にかけて240万本の木が植えられ、ついで慶応3年(1867年)までに植林がつづけられました。

こうして半世紀のちに、植え付けられた杉や檜がうっせうと林立し、水をたくわえ、それが八勢川にあふれ出し、元禄用水をうるおしたばかりでなく、更に新しい用水を作らせるようになった。それが嘉永6年(1853年)から安政5年(1858年)にかけて作られた長さ28Kmにわたる嘉永井手である。

こうした壮大な事業により現在の国有林が作りあげられ、下流域の人々の生活をささえています。その事業に携わった人々の業績は、今も国有林内や下流域の数カ所に記念碑等によりたたえられています。私たちも、こうした歴史の中に抱かれて生活しています。皆で森林や水を大切にしていきましょう。

九州森林管理局

熊本森林管理署

水汲み場。

水を汲みに来る人がけっこう多いため、この一枚を撮るのにかなり苦勞しました



少し下流では流れに降りられる場所もありました。
暑い日だったので足をつけると心地良いのですが、さすが水源の水だけあって冷たい！
もう5秒で十分、10秒も入れていたら辛くなります。



ちなみに吉無田水源から山に入っていく道があったのですが、しばらく進んでも何もありませんでした。



(2010.6.5)

けやき水源（熊本県阿蘇郡小国町）

小国町にある『けやき水源』です。

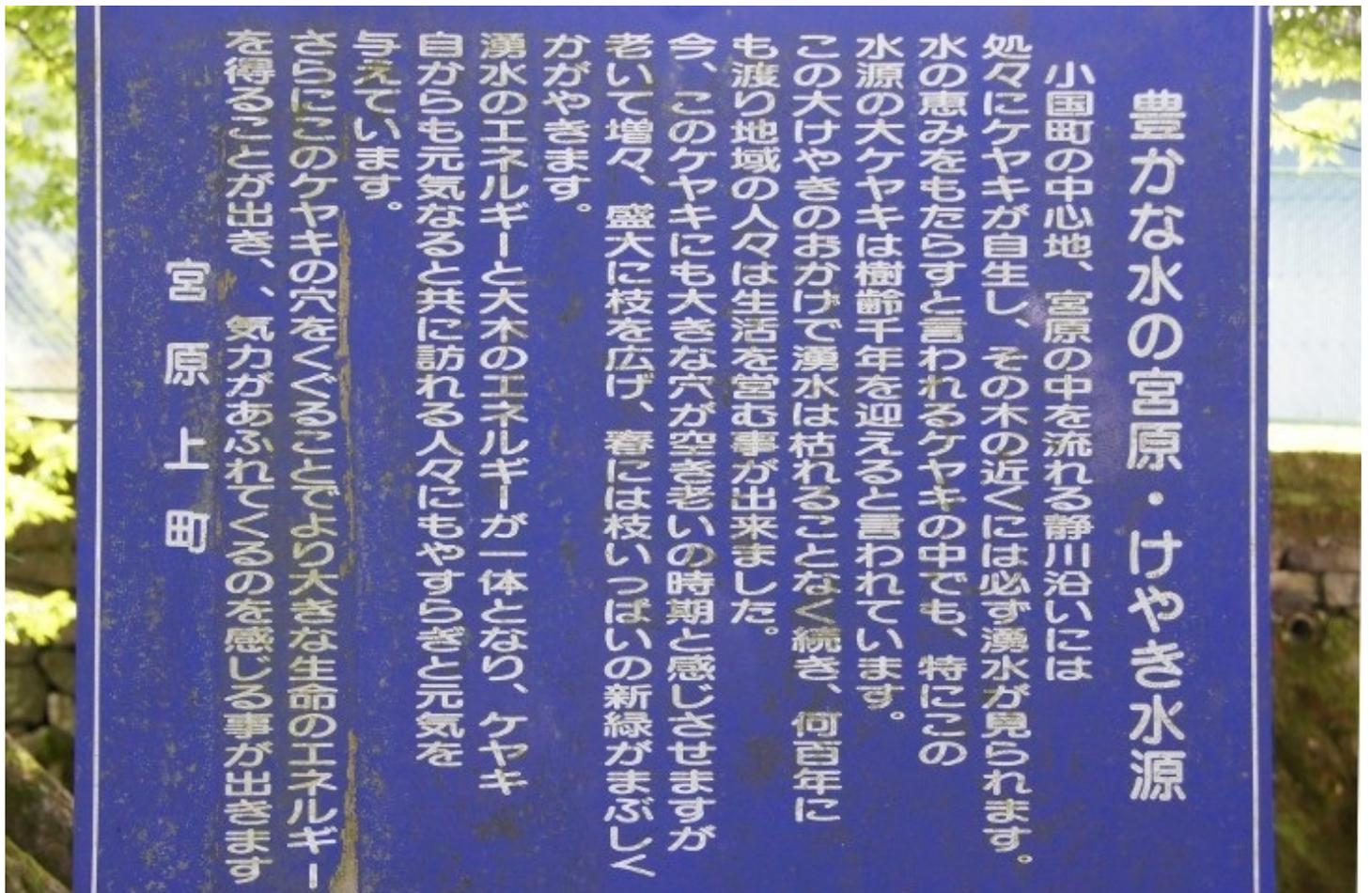


けやき水源はすぐ近くにしか案内は出ていないのですが、212号線から小国町役場を通り過ぎてしばらく進むと、このような看板が見えてきます。

小国小学校のちょうど対岸です。



けやきの穴をくぐると良いそうですが、ちょっと大きさに苦しいかも。



けやき水源のけやき。

水を汲めるようにはなっていませんが、冷たく澄んだ水が湧き出ていました。



湧き出た水はそのまま川へと流れていきます。

ちなみに川の水と比べても、水源の水のほうが若干冷たく感じました。



私がある間にも何人もこの水源に来て、足を水につけたりして涼をとっていました。
また川の対岸では小学生が泳いでいて、川のほうも水が綺麗なようです。

熊本市からだとちょっと遠いですが、夏の小国町ならお勧めのスポットです。

(2010.8.14)

太郎迫神社の湧水（熊本県熊本市立福寺町）

熊本市の北部にある太郎迫神社の湧水です。



ここは名前の通り、太郎迫神社の敷地から湧き出ています。この画像の左側が道路で、湧き水は右側。



手洗いの水は流しっぱなしでよく冷えており、これも湧き水を使っていることが分かります。



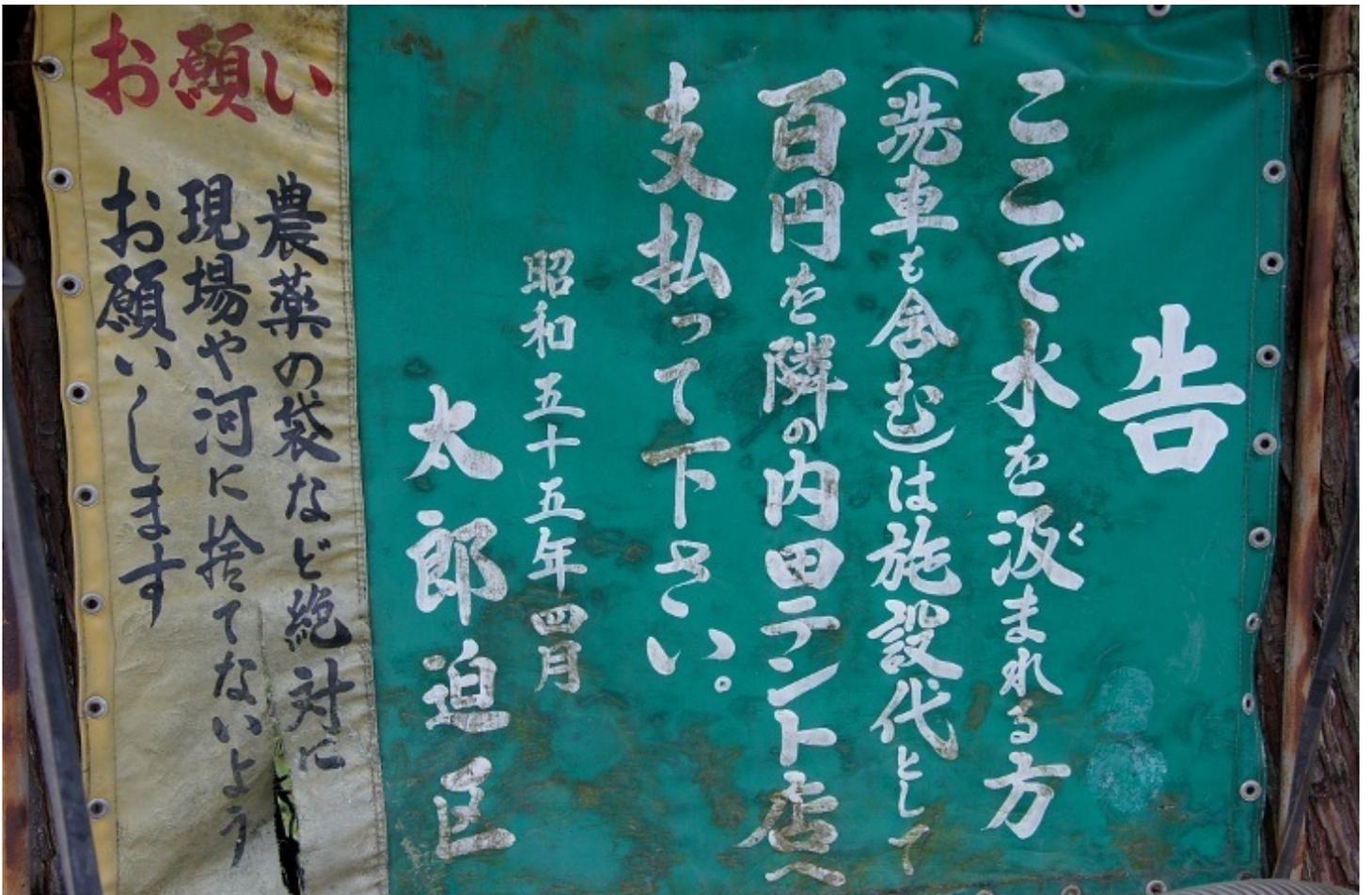
見えている部分で一番上流がここ。残念ながら水が吹き出ているような景色はありませんが、水は当然澄み切っています。



この落ちている水を手ですくって飲みました。



水を汲んで帰りたい方にはホースが用意されています。ただし百円が必要。





(2010.9.1)

潮井水源（熊本県上益城郡益城町杉堂）

潮井水源です。

ドライブ中にたまたま見つけて寄ってきました。



潮井水源までのけっこう入り組んだ狭い道を行くのですが、所々に案内が出ていますのでそれに従って行きましょう。



この水源にまつわる物語。

潮井水源

この水源にまつわる面白か話があるたい。

文政6年（1823年）の春に、この杉堂に伊三次て言う百姓がおつてな、自分の田のむぞさしゃ（可愛さに）、内緒で潮井の水源ば、深さ一丈（約3メートル）長さ百尋（約150メートル）ばかり掘って自分の田さん水ば引かしたたい。そるが潮井宮の神さんの気に障つてな、5月の中頃苗代時まじも、潮井の水の出らんな止まってしもうちな、ゆうと村中呆れち、時の郡代の里長（総庄屋）のにて訴え出た訳たい。それでその人達が祭主となって、津森宮の宮司も共に寝食を忘れて、「大御心を和らげ給え、蒼生のために水を与え給え」て必死に祈らしたげな。そして、15日・16日・17日・18日・と祈りに祈つて19日の昼、流石の神さんも哀れて思いなはったつだろう、大御心も和らいでな、切り立つ崖かる水の吹き出して、太さ二丈（約6メートル）もある岩ば吹き離す勢いで流れ出し、轟々てい言うち下の井手も田も打つ流す如て流れ出したげな。こるば見て村中の百姓も村々の里長（庄屋）達も心から喜うじ、そるからいよいよこの潮井さんば、大切にする如てなつたてたい。

（津森宮社伝・益城町民話より）

益城町役場 TEL 096-286-3111

この場所で水を汲めます。





水を汲める場所の下には池があり、大きな鯉が泳いでいました。





近くに祀ってあった潮井神社。



ここは徳富蘇峰の生誕地でもあるようです。



(2010.9.11)

鳴岩の湧水（熊本県熊本市花園）

上熊本にある鳴岩（なりいわ）の湧水です。
崇城大学前駅から車で数分程度。



ここも熊本水遺産に登録されています。



右に見える看板の下のホースから水が出ています。

ちなみに看板は「花園7丁目急傾斜地崩壊危険区域」を示すもので、湧水とは全く関係なし。



出ている水はこれ。

あまり勢いはありませんでしたが、車で汲みに来ている人もいました。



またこのすぐ近くには、「神風連五士自刃の跡」がありました。
これは[神風連の乱](#)と言われる明治政府に対する土族反乱で、翌年の西南戦争につながるものとされています。



(2010.9.20)

寂心さんの樟（クス）（熊本県熊本市北迫町）

樹齢800年以上と言われる「寂心さんの樟（クス）」です。



違うアングルから。

公園内にあるのですが、一際大きい茂みが目印となるので近づくとすぐに分かります。



さすがにこれだけ大きいと枝の重さに耐え切れないようで、、このように枝を支えているところがいくつもありました。



枝が下がっていて、すぐに触れる高さになっています。



幹を近くから。力強い生命力を感じます。



説明文。高さの29mもなかなかのものですが、枝張りが50m以上というのは驚異的です。



熊本県指定天然記念物

寂心さんの樟

昭和49年5月8日指定

熊本県には、国指定天然記念物「藤崎台のクスノキ群」に代表されるように樟の大木が多く、県木に指定されている。

ここ「寂心さんの樟」は、幹囲13.3メートル、高さ29メートルで、枝廻りは50メートル以上もあり、樹根は蛸の足のように地上をはっており、樹齢は約800年といわれている。

この大樹の根元に墓石が1基あり、鹿子木親貞入道寂心の墓と伝えられているために「寂心さんの樟」といわれ、神木ともなっている。

寂心は、北部町の楠原城に居を構えていたが、のちに隈本城（現、県立第一高校）に本拠を移し、天文18年（1549）に没するまで、隈本城を中心に勢力を伸ばした。

北迫地区の人々は、毎年1月11日、全員がこの神木の下に集って神事を行い、年の新しい出発の日としている。

熊本県教育委員会

(2009.7.9)

山吹水源（熊本県阿蘇郡産山村田尻）

熊本県産山村にある山吹水源です。



山吹水源には阿蘇市側から11号線を上って行き、途中までは池山水源と同じ方向です。池山水源まであと数百メートルのところに案内があり、山吹水源まで7キロと表示されています。

これ以降も小まめに案内がありますので、道に迷う事はないと思います。

そして車を走らせていると、最初にこのような建物が目に入ります。



見えにくいですが、右側の石からは水が吹き出ており、上には「名水 山吹の水」の文字が。そして左側の建物はお手洗い。。。

最初にこれが目に入った時のがっかり感が分かるでしょうか。

わざわざ車を走らせて来たというのに、それがトイレの横から出る水だったなんて。。。

と、これがフェイントその1。

この道を挟んだ反対側に車が十数台止められそうな駐車場があるのですが、そこにこのような案内が。



矢印の先は少し下り坂になっており、そこを進むと水が流れる心地良い音がしてきます。そしてやっと飲みたいと思える水がありました！



真横には綺麗な小川が流れ、周りの木々も生命力を感じさせる空間でした。

地蔵に手を合わせ、水の冷たさと美味しさに満足して写真を撮ったりしていました。
と、これがフェイントその2。

この後にまた駐車場の奥を見ると、今度はこのような案内が。



・・・まあ、きちんと確認しなかったのが悪いのですが。

ちょっと脱力気味になりながらも先へと進みます。

ちなみに遊歩道は木々に囲まれ水の音が聞こえてもいますので、あまり長さを感じずに歩く事ができました。

脱力気味なものすぐに復活。途中の小川からの一枚。



そしてとうとう、本物（笑）の山吹水源に到着できました。



さすが、水源の名に恥じない雰囲気漂わせていました。
池山水源の近くだけあって、こちらも水質、雰囲気ともに素晴らしいものがあります。
(ただ池山水源と比較すると一歩譲ってしまうのが、近いがための惜しさですが)

(2009.9.27)

梅ノ木轟の滝（熊本県八代市泉町柿迫）

熊本県の泉町にある梅ノ木轟の滝です。



この滝は五家荘県立自然公園の中にありますが、ある地域一帯をさして公園としているので、公園の入り口があるわけではありません。

行く場合は445号線の梅ノ木茶屋が目印になります。



梅ノ木茶屋の奥にある、この吊り橋を渡って行きます。

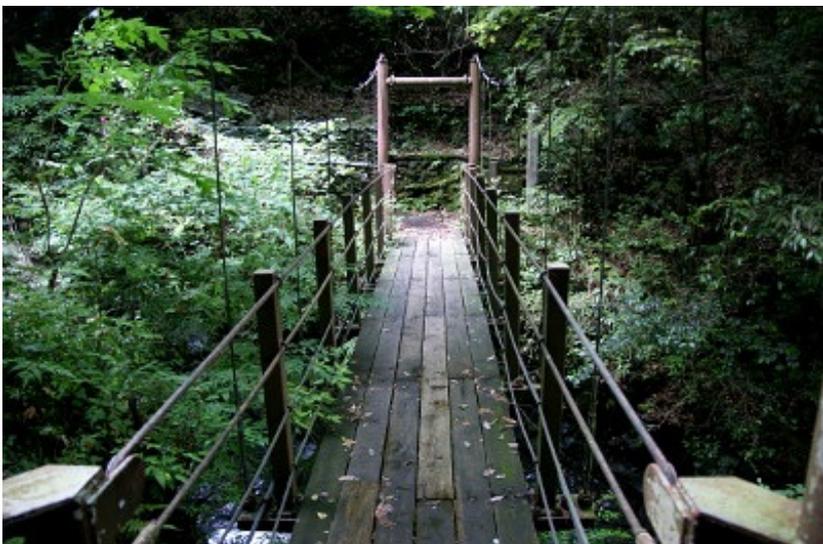


滝までは吊り橋を渡って300mほど。

途中にはこんな小さい吊り橋もあります。

上が「龍門橋」で下が「酔心橋」。

ちなみに写真は撮れませんでした、途中でイノシシを見かけました。こちらに気づくとすぐに逃げてしまいましたが。



酔心橋くらいから滝の姿が良く見えるようになります。
水はきれいで、サンダルで水に入ると心地よかったです。





(2009.8.4)